

平成26年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	大町温泉郷 スマイル計画事業
事業主体 (連絡先)	大町温泉郷観光協会 0261-22-3038
事業区分	⑥-オ 産業振興と雇用拡大
事業タイプ	ソフト
総事業費	5,474,142 円

事業内容

仮設住宅を離れ 北アルプスのふとこで気分転換をして頂き観光客・大町市民と共に 温泉郷の「おもてなし」を感じて元気を取り戻して頂く。
温泉郷森林劇場で 被災者・観光客大町市民との交流の場を設けて 仮設住まいのストレスを発散して頂く。
新しい告知方法を模索し 時代に取り残されない観光地を目指して行く。



【飯舘村の皆さんと】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

【目標・ねらい】

- ①被災者招待でおもてなしの心を
- ②招待事業を市内外に告知する
- ③イベント告知による集客
- ④インターネット告知方法の研究

- ①【第3回4月22日・23日 80名招待】 ホテル夢の湯 44名・黒部観光ホテル12名・立山プリンスホテル12名、ホテル緑翠亭景水12名。お越しいただいた方の中には2度目という方もいらっしゃいましたが お帰りの時には感動のあまり目を真っ赤にしておられる方も多くいらっしゃいました。
- ②大町でお蕎麦屋さんを営まれている福島県出身のご主人から 皆さんに お蕎麦の提供を頂きました。そのことが新聞等で記事にされ 温泉郷の活動がだいぶ知れてきた感じがしています。
- ③祭りのころの集客は インバウンド(特に台湾)が大幅に増え 27年度に大きな期待をしています。また 秋には飯舘村の方々が自前でバス1台40名が 大町において頂いたことは大きな喜びでした。
- ④インターネットメールを使った物を 楽天トラベルと協力して行い これからの告知方法と感ずる結果が得られたと思います。これからは ネット予約が主流になるのは間違いないと感じています。

※自己評価【A】

【理由】

飯舘村の方々が秋には自分達で温泉郷にいらっしゃいました。祭り期間中の台湾観光客が 対前年比2.4倍に増えた。青年部が「らしく」なってきた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

原発事故被災者を招待している大町温泉郷というイメージは わずかでも広がっていると感じている。温泉郷の共通の「おもてなし」意識が 見えてくればと、思っている。
今までも 行ってきたようにイベント等の発信と共に 大町温泉郷の環境などを日本のみならず世界に発信してゆきたい。この招待事業から動き出した 温泉郷青年部の若い発想と 行動に大いに期待するところである。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある